

—福祉サービス第三者評価事業—

評 価 結 果 報 告 書

訪問調査日

平成 19 年 2 月 15 日

施設種別

知的障害者更生施設

施設・事業所名

若葉園

評価調査者

【主任調査者】

【評価調査者】

【評価調査者】

(氏 名)

# 評価報告概要表

## ■第三者評価機関

名 称	社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
評価調査日	平成19年2月15日(木)

## ■福祉サービス事業者情報

名 称	若葉園	種 別	知的障害者更生施設
代表者氏名	施設長 桑田逸司	開設年月日	昭和57年4月1日
設置者	社会福祉法人 緑風会	定員(利用人数)	50名(50名)
所在地	〒740-1404 岩国市由宇町984		
電話番号	0827-63-1177	FAX番号	0827-63-1178
ホームページアドレス			

## ■総 評

### 全体を通して(事業所の優れている点、独自に工夫している点など)

#### ◇特に評価の高い点

法人全体の事業運営向上への意識が高く、当事業所においても理念に基づく基本方針、事業計画等が明確に策定されている。管理者は事業所の経営や業務の効率化・改善に意欲的で、その取り組みに十分指導力を発揮している。また、それらの利用者、保護者、職員への周知についても積極的に取り組んでいる。各種のマニュアルの整備も適切になされている。居室はどの部屋も日当たりが良く、風通しも良い。事業所が小高い丘にあり、地域の人たちと接する機会が少ないと思われたが、自作の農作物を玄関先で販売するなどして、日常的な地域との交流に前向きである。

#### ◇改善を求められる点

建設以来、25年を経た建物であり、居室は4人部屋が多く、生活する利用者にとって満足できる環境であるとは言い難い。食堂もやや手狭さを感じる。スペースの関係もあろうが、できれば食事は利用者と職員も一緒にされてはいかがだろうか。また、一部建物内(デイルーム)に喫煙場所が設置してあるが、他の利用者の健康等を考え、屋外に喫煙場所を設置されたい。

## ■第三者評価結果に対する事業者のコメント・事業所のPR

--

# 評価報告概要表

## ■評価分野別評価結果(分野別の特記事項)

I 福祉サービスの基本方針と組織	a	11	b	1	c	0	Na	0
<p>理念、基本方針、事業計画等の明示、文書化は適切になされ、それらの周知も朝礼や職員会議において徹底されている。管理者は自らの役割と責任を文書化し、表明しており、その問題意識は高く、3年を目処に策定した計画の実践・実現に向けて強いリーダーシップを発揮している。法人においてコンサルタントが導入され、事業所としても業務の効率化や改善に向けて積極的に取り組んでいる。</p>								

II 組織の運営管理	a	16	b	5	c	0	Na	0
<p>管理者自らが市町に出向き、経営環境に関する情報、ニーズの把握に努めている。人材の育成等に関しては、障害者自立支援法における新体系への移行の検討段階でもあり、その取り組みが十分になされているとはいえない現状にあるものの、人事考課についてはコンサルタント導入により、きめ細かく、職員の理解も得ながら実施されている。職員の質の向上については、マニュアルを整備して実施されており、その評価・見直しもされ、体制は確立されている。利用者の安全確保の取り組みは、職員会議・ケース会議等において全職員でヒヤリ・ハット事例の分析、対策を検討し、再発防止に努めている。小中学校、婦人会、在宅障害者等々との地域との関わりは良好かつ積極的である。今後は地域に向けての福祉に関する講習会等の開催も期待したい。</p>								

III 適切な福祉サービスの実施	a	16	b	10	c	0	Na	0
<p>毎日の朝礼、毎月初日の職員会議(全員朝礼)、ケース会議、緊急会議等の各種の会議が有効に機能しており、組織としての安定感を感じる。利用者に関する記録やサービス実施の記録は適切に整備され、サービス実施計画も利用者の意向やニーズを反映したものとして策定されている。福祉サービスに関する諸課題の評価・見直し、それに基づく実践がさらに質の高い福祉サービスとして提供されるよう、今後とも組織全体が高い問題意識を持って取り組んでいかれることを期待したい。</p>								

IV 良質な個別サービスの実施	a	25	b	3	c	0	Na	0
<p>個別サービスに関する種々のマニュアルが用意されており、利用者へのサービスは配慮の行き届いたものとなっている。明るい居室と花壇や畑等を備えた施設全体のたたずまいは、利用者に気持ちの安らぎをもたらしているものと思う。ただ、居室は4人部屋であり、予算等との関係もあるが、利用者の生活の質の向上を考えると二人部屋化あるいは個室化は今後の課題と思われる。施設玄関先での農作物の販売など、地元との日常的な交流に積極的な工夫がされている。今後とも地域との意識的な交流を図り、利用者の生活に新しい環境や新しい人間関係を提供し、その人生の豊かさの幅を広げたいものだ。</p>								